

# 漫画になった しげなりさん

## 天草救った代官 地元育ちの若者が卒業制作で

天草地域で尊敬と親しみの念を込めて「鈴木さま」と呼ばれる人物の功績が、地元で生まれ育った若者の手で漫画になった。天草・島原一揆後、幕府直轄の天領となった天草の初代代官、鈴木重成。若者の思いに感激した住民が支援して書籍として出版され、地域住民に無償で配布される。

重成は1641年に天草の代官になり、天草地域の復興に尽力した。禅僧だった兄、正三の支援で荒廃した人心の復興に努めたほか、幕府に農民の年貢の石高半減を訴えた。正三の子で重成の養子となった2代目代官の重辰も同じ訴えを続け、後に実現。天草を救った代官として鈴木神社（天草市本町）をはじめ天草の三十余力所に「鈴木さま」としてまつられている。

漫画化したのは本町で生

まれ育った磨田紳太郎さん（22）。本町小学校1年生だった2003年、重成の没後350周年記念の大祭で、重成を題材にした演劇に出演した。江戸時代の禁教下に潜伏キリシタンら住民が強いられた絵踏をする小僧役だった。以来、故郷で偉業を成し遂げた「鈴木さま」を非常に誇りにし、その存在をほとんど忘れたことはなかったという。



卒業制作の作品展に展示されたパネルの前に立つ磨田紳太郎さん＝天草市本町

## 幼い頃からの誇り ■ 住民が協力、出版

ザイン学科マンガ表現コースに進学。卒業制作のテーマに「鈴木さま」を選んだ。「せめて熊本の人たちには、重成のことを知ってもらいたかった」

時代考証のため、天草市立本渡歴史民俗資料館などで足を運び、重成の歩みを調べた。疑問が生じることもあった。例えば、重成が実際より多く見積もられていた天草の石高半減を嘆願して切腹したという逸話。地元で語り継がれており、漫画はその筋書きに沿って描いたが、死因を「病死」とする見方もあった。そこで、漫画には解説的な文章を織り込んだ。

約10カ月かけて「しげなりさん あまくさをすくったおだいかん」と題した冊子の作品などを制作。卒業制作の作品展では、観賞した人から「こんな人がいるんですね。とてもわかりやすかった」といった感想が寄せられたという。

この作品に注目したのが、本町地区振興会の岡部養一会長（66）だった。磨田さんの実家で読む機会があり、「卒業制作で終わらせるのではなく、地域の人たちに行き渡らせたい」と考えて地元の人たちに支援を呼びかけた。「教えを受けてきた人が成長して、漫画という形で表現してくれたということは大変うれしい。地域にとっても誇りです」と岡部さんは話す。

地元では同振興会など4団体が出版の趣旨に賛同して頒布や資金の支援に協力。書籍としての出版が実現した。鈴木神社の田口孝雄（76）も重成の功績が若い世代に語り継がれていることを喜んでいる。

磨田さんは大学在学中に学芸員の資格を取得し、博物館や美術館を支える仕事に関心を深め、今春から移動棚メーカーの社員として働いている。漫画は自由な時間に趣味として今も描き続けている。

磨田さんは「地域に配布していただけるという予想外の形になり、非常に驚くと同時に大変ありがたい。漫画という媒体を通して、少しでも地元の人への思いを深めてほしい」と話している。

書籍はA4判で24頁、650部発行。今月23日に鈴木神社などで開かれる「本町ふるさとまつり」の来賓にも配布することになっている。

（大矢雅弘）